

中学生の「税についての作文」優秀作品
『津南町租税教育推進協議会 津南町長賞』

未来へのバトン

新潟県立 津南中等教育中学校 3年

鈴木 雫 月

「税金ってなに？」そう聞かれたら私はうまく説明することができないと思う。そもそも税金とはなんなのか。「税金とは」と検索すると「年金・医療などの社会保障・福祉や水道、道路などの社会資本整備、教育、警察、防衛といった公的サービスを運営するために必要な費用」と出てくる。身近な税といえば消費税。百円ショップであっても一つ買えば十円の消費税が伴う。税に対して嫌悪感を抱く人も少なくはないはずだ。

租税教室ではDVDなどで税金がない日本はこんなにも悲惨であると、そこらじゅう汚れている、火事が起きても消防などはお金を払わなければ来てくれないような信じられない光景を見る。よく「日本は道路やトイレが綺麗だ」「日本はとても安全である」という人がいる。なぜ日本はこんなにも綺麗で安全なのか。私たちが安全に通学・通勤できているのは道路が整備されているから。髪を洗ったり水を飲んだりトイレを使ったりできるのは上下水道が整備されているから。これらは誰か一人が頼んだから行われている？いや違う。これらには税金が使われている。税金は私たちの豊かで安全な暮らしを支えているのだ。世界に目を向けてみると税金が存在しない国や日本のように公共施設が整備されていない国だってある。今の私たちの生活がどれだけありがたいものなのか今一度考えてみてほしい。

日本には一体いつから税金があるのか気になったため調べてみた。日本に税というものは今から千三百年以上も前の弥生時代からあったそうだ。ただし初めはお金ではなく食べ物や特産品の布や絹など。ずっと昔から税があったにも関わらず今もなお存在し続けていることは、税というものがどれだけ重要で、私たちの暮らしと切っても切れないものなのかを教えてくれる。

これらの点を踏まえて、私は税金を納めるということは「未来へのバトン」であると考えている。私たちは普段、安全に通学したり、お風呂に入ったりする「あたりまえ」の日常を送ることができている。これらは税金を納めているからこそ実現されるものだ。私たちは今、過去から未来の自分や世の中を幸せにするための税金というバトンを渡されている。税金の負の面が大きく伝えられている中で、税金は明るい未来へのバトンになっていることをもっと多くの人に知ってもらわなければならない。たくさんの人が税金を納めていることにありがたみと、自分もバトンをつないでいることに誇りを持ち過ごしていきたい。つないでくれてありがとう。次は私たちの番。今ならはっきり言える。税金は、なくてはならない、明るい未来へつなぐバトンだ。